

白山ふるさと文学賞

第四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生高学年作文の部 最優秀賞

大切なのはあきらめないこと

千代野小学校五年

岩倉 いわくら

光理 ひかり

私は、逆上がりができません。先生に教えてもらったり、友達に手伝ってもらったりもしました。こうすれば逆上がりができるようになるということは全部やってみました。休み時間も逆上がりの練習をして、休みの日も近くの公園に行って練習しました。いつも、「もう一回！もうちょっと！」と自分をはげましてがんばるけれど、できません。クラスの中でも、できる人の方が圧倒的に多く、私は体育の時間に逆上がりができない人の中にいることがとても悔しいです。足もとてもおそいわけではないし、水泳も得意で、運動神経は、そこまで悪くはないはずですが、それなのにできない自分がいやになります。手のひらにできた豆を見ると、「なんで？」という気持ちでいっぱいになります。痛くて悲しくて悔しくて涙が出そうなのをぐっとがまんします。

お母さんは、

「がんばってたら、いつかできるよ。ピアノや習字といっしょよ。」と言います。そう言われて、ピアノと習字のことを考えてみました。

どちらも小さいころから習っています。ピアノは、毎日練習して、むずかしいところでも、何度も何度も練習したらできるようになります。こうしたら上手になるかな。こうした方が良かったかな。と考えて、下手な所を少しずつ直したり、できない一つの所だけに集中して練習しています。習字も同じです。上手になるために、先生の話をよく聞いて、ていねいに書いています。それでも、両方とも上手くいかないことがたくさんあって、コンクールなどで良い結果が出なかったり、自分の思った演奏や字にならなかった時は、とても悔しいです。でも、その悔しさは、逆上がりができない悔しさとは違います。ピアノも習字も小さい時からしているのです、私にとつては得意なことです。上手くひけた時や、上手に書けた時は、できた！という達成感があります。がんばってよかったです。うれしい気持ちになります。だから、得意なことをがんばって審査の人（他人）に評価されて、だめだった時の悔しさの中には、残念な気持ちもあります。そして、もっと上手になろうと思っただけががんばれま

す。逆上がりは、私にとつて苦手なことです。達成感やうれしくなったことがないので、悔しさが違います。お母さんが言ったように「いっしょ」ではないと思うのです。

ある時、フィギアスケートの浅田真央さんが現役復帰して、インタビューに答えているところをテレビで見ました。浅田さんといえば、日本を代表するフィギアスケート選手で、オリンピックでも活やくした方です。その浅田さんが、
「すぐに前のようにすべれると思っただけで、ぜんぜんダメですね。コツコツがんばります。」

と言っていました。私は、前に浅田さんが現役時代の時の特集番組を見たことがあって、その中の浅田さんは、生活のほとんどの時間をスケートに使っていました。その時、私はあんなに上手でがんばっていた人でも、できなくなるんだなあ。コツコツやるしかないんだなあ。と思いましたが、そして、少しだけ気持ちが楽になりました。私は、スケートはできないので、比べることはできないけれど、だれよりも得意なことでも努力を続けたいとできなくなると思ったら、苦手な逆上がりができなくてもしようがないかなと思えました。

それから少し気持ちが変わりました。浅田さんにはぜんぜんおよばないけれど、ピアノも習字も何年もがんばっています。コツコツ練習を続けたから、得意なことになったのだと思います。逆上がりは、「いっしょ」ではありません。お母さんが言ったように、ピアノや習字と同じようにたくさん練習したら、できるような気がします。逆上がりは苦手なことなので、得意なことよりは努力しないとできないけれど、あきらめないでコツコツ続けることが大切だと思います。

私は、まだ知らないことがたくさんあります。その中には、苦手なこともあると思います。そんな時、あきらめてしまえば、少し前の私の逆上がりのように悔しい気持ちだけが残ります。でも、苦手なことほどあきらめずにコツコツがんばれば、きっといつかできるようになるはずで

す。そして、その時に達成感を味わうことができると思います。だから、できなくて悔しかったり、悲しかったりする時も、あきらめない気持ち大切に、がんばりたいです。逆上がりも、これからも練習を続けようと思います。いつできるようになるかは分からないけど、できるようになった時が、とても楽しみです。

